

【専門教育科目/看護の統合と発展】

科目名		ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等	
多職種連携活動論		NSP21_005	必修	1	2	後期	
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
伊丹 幸子		304	s.itami	月曜日 12:10～13:00			
授 業 の 目 的 ・ 概 要	多職種連携活動論は療養者のＱＯＬを向上するために、多職種の連携・協働を図る必要性を理解し、専門職として必要な知識と技術を学ぶ科目である。医療・看護・介護・保健・福祉の連携・協働は、急性期看護、回復期看護、在宅看護及び公衆衛生看護の場において重要な課題である。本授業では、多様な関連職種の専門性を理解し、活動の場における看護職を取り巻く職種との連携・協働方法について同時双方向型授業や遠隔授業で学ぶ。						
授 業 形 式 ・ 方 法	☒対面授業 ☐遠隔授業（双方向型） ☐遠隔授業（自主学習） ☒講義 ☐実習 ☐実技 ☐PBL ☒グループワーク ☒その他（ ☐反転授業 ☐プレゼンテーション 課題学習 ☐ディスカッション・ディベート ☐実習・フィールドワーク						
学 習 上 の 助 言	看護と関連の深い多様な専門職者の講義を受ける機会を設けている。貴重な学習の場面を有効な学びにつなげることを期待する。						
教 科 書	・在宅看護学① 地域療養を支えるケア /ナースィング・グラフィカ /2022 ・厚生指標 増刊 国民衛生の動向 Vol.67 No.9 2022／2023 [2冊指定]						
参 考 書	地域連携論 ―医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援― /著:高橋紘士・武藤正樹 /オーム社 /2019						
外 部 教 材	特になし						
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針			
①	多職種連携の概念と必要性について説明できる。				NS(5)		
②	保健・医療・福祉領域の連携に関わる主な職種と各職種の役割が説明できる。				NS(2)(4)		
③	連携に必要な理論と技術を理解し説明することができる				NS(5)		
④	事例を通して課題解決のために必要な職種と連携の形態を検討できる。				NS(5)		
授 業 計 画							
回	学習内容等		授業方法		学習課題・学習時間（時間）		
1	オリエンテーション		講義・演習		保健医療福祉分野の多職種連携にかかわる職種を調べ、ポートフォリオとする。		1
2	多職種連携の概念および基本理念 多職種連携の変遷・背景						1
3	医療機関で行われている多職種連携		講義・演習		医療機関での多職種連携と看護師の役割についてまとめ、ポートフォリオとする。		1
4	各専門職と看護師の連携						1
5	療養の場の移行に伴う多職種連携		講義・演習		介護保険事業および地域包括ケアでの多職種の役割についてまとめ、ポートフォリオとする。		1
6	地域包括ケアにおける多職種間の連携と看護職の役割		講義・演習				1
7	地域連携における理学療法士の役割と連携の実際		講義・演習				1
8	地域連携における作業療法士の役割と連携の実際		講義・演習		予習：各職種の定義と役割を調べ、ワークシートを授業前に提出する。 復習：各職種の内容について、整理する。（ポートフォリオ作成）		1
9	地域連携における社会福祉士・精神保健福祉士の役割と連携の実際		講義・演習				1
10	退院調整看護師の役割と連携の実際		講義・演習				1
11	地域連携における管理栄養士の役割と連携の実際						1
12	地域連携における薬剤師の役割と地域連携						1
13	退院支援、継続看護と地域連携		講義・演習 グループワーク		「事例」を熟読して、課題を行う。		1
14	多職種連携における看護師の役割と連携		講義・演習 グループワーク		「事例」を熟読して、課題を行う。		1
15	まとめおよびレポート作成				ポートフォリオの作成		1
試	定期試験（筆記試験）						

【専門教育科目/看護の統合と発展】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		40	20	0	30	10	100
総合 力 指 標	知識・技術力	20	0	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	20	5	0	5	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	5	0	5	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	10	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	0	10	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験とする。看護師国家試験への出題問題も範囲とする。				メールで回答の解説を送付する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
レポート	①	✓	記載内容の適切性を評価する。				レポートは後日コメントして返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①	✓	課題や記録物等を適切な収集・整理ができる。				レポートと一緒に後日コメントして返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
その他	①		受講態度等を総合的に評価する。				問題が生じた場合には、個別に面接を行う。
	②						
	③						
	④	✓					
備 考							
他 担 当 教 員		山崎洋子					
教員の実務経験		山崎：保健師として保健所、市町村に10年勤務、また、大学病院の医療連携室での退院調整や療養生活相談等に勤務。伊丹：35年間の県および市町村の行政保健師および児童相談所の勤務経験がある。					
実践的授業の内容		保健所・市町村における行政保健師活動等の実務経験を元にして、内容を構築し、地域包括ケアについて理解を深める。教員の経験からさまざまな事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習する。					
そ の 他		・ 毎回講義に出席し、積極的な態度で授業に臨むことを重んじる。原則として理由のない欠席はしないよう心がけること。 ・ 学生の理解度に応じ、講義の速度や順番を調整する可能性がある。 ・ Teamsを使った同双方向型授業を実施するときは通信容量無制限のWifi環境を推奨する。 ・ 今後の新型コロナウイルス感染症の状況などにより、再度シラバス内容が変更となる可能性がある。					